

国際園芸アカデミーの今西でございます。

開学以来、ご指導いただいている県並びに県議会、学生の学びにご支援いただいている金融機関や企業様、人材育成などの連携・協力をいただいている市町や企業様、インターンシップや就業の機会をいただいている団体や企業様など多くの皆様に支えられながら、開学20周年を迎えることができました。

これまで本学を育てていただきました全ての関係者の方々の努力と情熱に対し改めて敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

20年の歩みについては、会場内に様々なパネルを掲げさせていただいておりますのでお時間の許す限りご覧いただければ幸いです。

さて、本学の歴史を振り返りますと、2004年4月に学校教育法に基づく専修学校として「マイスター科」と「上級マイスター科」を備えて開学し、初代大川学長が就任されております。

2010年4月に第2代上田学長が就任され、上級マイスター科への学生募集を停止し、2013年には廃止となっておりますが、2014年に開学10周年を迎え、2018年には文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けたところでございます。

現在は、マイスター科に「花き生産コース」と「花き装飾コース」、そして「造園緑化コース」を備えております。

本学では、園芸分野全体を知り「花と緑」の知識と技能を幅広くかつ奥深く身に付けている「職業園芸人」となる人材を育成しております。

そのために、学生はどのコースに進んでも、全員が「植物管理」「花き生産流通」「花き装飾」「造園緑化」「就業体験」「国際性」「マネージメント」「マーケティング」「文化・利用」「課題解決」という10の分野を学びます。

花き生産コースでは、「新しい価値を生み出す種をまく」そのために、生産技術や商品企画、現場マネージメントを学んでいます。最近では、企業との共同研究や企画商品の学外への出展も行っております。また、研究成果の発表では優秀賞など受賞しております。

花き装飾コースでは、「その花を語れるフローリストになる」ためにフラワーデザイン・グリーンディスプレイなどの装飾技術や植物管理方法を学んでおります。「技能五輪全国大会」には、岐阜県代表として通算12回、25名が出場し8名が入賞しています。

造園緑化コースでは、「花と緑の造園空間の創造」に向かって、デザイン、設計、施工、維持管理運営を学んでおります。「技能五輪全国大会」や「若年者ものづくり競技大会」へ出場、「全国造園デザインコンクール」などへの応募を重ね、数々の成果を上げてきています。

次に、国際園芸アカデミーの主な取り組みなどについてご紹介します。

業界の第一線で活躍する非常勤講師による対策実習を開講するなど、技能検定や造園施工管理技士といった花と緑に関連が深く、即戦力として必要になる「資格の取得をサポート」しています。

「花と緑の連携授業」では、高等学校などの授業の一部を本学教員が講師として受け持ち、花と緑に関する出前授業を展開しています。草花の栽培や育種、花き流通、フラワー装飾、造園、都市緑化など本学教員ならではの多彩で魅力的な授業を行っています。

「国際交流」では、モロッコ、ベトナム、中国などからの研修生を受け入れるとともに、モロッコに本学教員を派遣するなど国際交流を進めてまいりました。

2019年度からはフランスとの交流を開始し、ヴェルサイユ造園学校やCEPPAル・フレンヌ校から研修生を受け入れました。現在は、フランスのCEPPAロマン校や韓国ソウル大学、中国の精華大学や成都農業科学技術学院との交流も進めております。

「技能五輪全国大会」では、「フラワー装飾」職種は、2011年度から毎年のように岐阜県代表として出場し、上位入賞者を数多く輩出しています。

2019年度からは「造園」職種でも岐阜県代表として出場しており、2023年度には初めて敢闘賞を受賞したところでございます。

上級マイスター科では、全国規模の「コンクール」に参加し、多くの入賞を果たしてきました。

マイスター科では、全国造園デザインコンクールなどに積極的に参加しており、優秀な成績を修めています。

マイスター科2年生の必修科目として、園芸の本場であるヨーロッパへの「海外視察研修」を行ってきました。新型コロナの影響で、一時「国内視察研修」に切り替えていましたが、今年度からシンガポールへの海外視察研修を再開しています。

「ぎふワールド・ローズガーデンの活用」では、2019年4月に公園内に実習フィールドを設け、花壇管理や庭園制作の実習をしています。

2023年度には花トピアを本学のサテライト施設として改修整備し、今年度から作品展示、販売実習などで本格的に活用し、実践教育を強化しています。

学生募集活動として、年間を通して「学校見学会」を行うとともに、夏休みには「オープンキャンパス」を開催しています。学校の概要や入試説明、模擬授業体験や施設案内などを行い、本学についての理解を深めています。

2023年度までに県内の5自治体・3企業と「連携・協力」協定を締結し、自治会活動の支援など様々な活動を行っています。地域貢献活動や技術研鑽の

場として、活動に参加する学生の貴重な体験の場にもなっています。

ぎふワールド・ローズガーデンでの管理作業や関ヶ原町の休耕田での植栽作業、花育活動や花と緑のイベント支援など、学生は様々な「ボランティア活動」に参加しています。

こうしたボランティア活動を通じて地域社会とつながることで、新たな経験や気づきが得られます。

「学園祭」は、学生会が主体となって例年6月に開催され、実習で栽培した花苗の販売、花束づくりや体験教室など、地域の方々との交流を通して本学の魅力を発信しています。

「花と緑」に関心のある一般の方や園芸業界の実務者、卒業生などを対象とした「生涯学習講座」を開講し、本学の教員が講師となって、ニーズに応じた内容で講義や実習を行っています。

さて、「人材育成の実績」ですが、上級マイスター科では、1期生から7期生53名が入学し、43名が卒業しました。

- ・出身地では、岐阜県内が約6割と最も多く、次いで愛知県となっています。
- ・卒業生のうち、約4割が岐阜県内に、3割が愛知県に就職しました。
- ・業種としては、造園設計・施工関係が全体の34%と最も多く、次いで生花園芸店・装飾業界、公園管理・観光業界となっています。

マイスター科では、開学から2023年4月までに412名が入学し、2024年3月までに355名が卒業しました。

・出身地では、岐阜県内が約6割と最も多く、県外では、愛知県、長野県が多くなっています。遠くは北海道や岩手県、四国の愛媛県など遠方からの入学生や留学生もいます。

・卒業生のうち、約4割が岐阜県内に、3割が愛知県に就職しており、出身地に戻って就職する学生もいます。

・業種としては、生花園芸店・装飾業界が46%、次いで造園設計・施工関係が23%となっており、公務員・団体職員や公園管理・観光業界に進む卒業生もいます。

「競技大会・コンテスト等での主な受賞歴」を紹介させていただきます。

上級マイスター科では、「国際バラとガーデニングショー」や「フラワードームあいち花フェスタ」、その他に「全国学校ビオトープ・コンクール」や「浜松モザイクカルチャー―世界博」などで優秀な成績を収めています

マイスター科においては、原則20歳以下の国内の青年技能者を対象とした「技能五輪全国大会」や原則20歳以下の学校等において技能を習得中の若年者であり、企業等に就業していない者を対象とした「若年者ものづくり競技大会」において数々の優秀な成績をあげています。いずれの大会も学生の大きな目標となっております。

2020年以降は、造園のデザインと製図技術の向上を図る目的で実施されている「全国造園デザインコンクール」や「愛知県造園デザインコンクール」「緑の環境プラン大賞」へも積極的に応募し、こちらでも数々の受賞を受けています。

20年の間には、各種コンテストやコンクール、ガーデニングショーや技能五輪において在校生のみならず卒業生も輝かしい成績を残してきています。

プロ・アマを問わず参加できる「日比谷ガーデニングショー」では、2022年度から3年連続の受賞、しかも2年連続最優秀賞である大臣賞を受賞しています。

「技能五輪全国大会」においては、卒業後も23歳以下の参加資格の中で挑戦する姿勢を持ち続け、金賞も受賞しております。

その時その時を懸命に考え抜き行動してきた教職員とそれにしっかりと応えてきた学生が築いてきた国際園芸アカデミーの歴史は、今を預かる私たちの大きな礎であり、また誇りとするところでございます。

20年を経て辿りついた国際園芸アカデミーのミッションは、明解です。

それは、花と緑に関する専門的かつ総合的な知識と技術を有する人材の育成を進めつつ、現場を支える担い手として活躍できる実務者の育成であります。

そして岐阜県という狭い枠組みにとらわれることなく、夢をもって全国へそして海外へ大きく羽ばたいていく人材を育ててまいります。

国際園芸アカデミーの最強のコンテンツは、人であり人脈、そして経験と信用・信頼です。

今後も、肉体的にも精神的にもそして社会的にも健康である人材の養成と育成にまい進していくことをお誓い申し上げます。

今までは誕生期から成長期の10年、さらに発展期から改革期の10年、これからは改革しつつ成熟を極める10年、20年となるように進んでいかなければなりません。これまでの20年に感謝し、さらに歩み続け、次の20年を築いてまいります。

最後になりましたが、このような国際園芸アカデミーが誇りであるとともに、これまで本学を育てていただきました全ての関係者の皆様に対し、改めて最大の敬意を表し、引き続き温かいご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。